

【 国 語 】 内容および観点別の分析

観点	国語への関心・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・能力
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで読書をする児童が多い。 ・発表や長い文章を読み書きすることに苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して話を聞く力が向上してきた。伝えたいことを整理して話すことはやや不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文を構成する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の内容を正確に理解し、読み解く力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習熟に個人差が大きい。語彙力を高める必要がある。
考察	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲をもって取り組むことができる児童が多い。 ・しっかりした姿勢を保ち、最後まで集中して話を聞くことに課題が見られる。 ・自分で文を読み、内容を正しく理解することについて個人差が大きい。 ・伝えたいことを順序立てて話したり、書いたりすることが苦手意識をもつ児童がいる。 ・ひらがなやかたかな、漢字を正しく読んだり、書いたりすることについて個人差が大きい。 			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文の構成を意識し、文章を書くことに課題が見られる。 ・何が大切どころか意識しながら聞くことに課題が見られる。 ・音読・漢字の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、漢字の習熟には個人差が大きい。 ・事実の読み取りから、書かれていない行間の気持ちを考えることに苦手意識がある。 ・豊かな文章の表現を感じ取り、イメージすることが難しい。 			
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心意欲については、個人差が大きい。発表や長文を読むことに苦手意識をもつ児童がいる。 ・話を聞く態度が育ちつつある。話の中心をとらえて内容を的確に伝える力に課題が残る。 ・伝えたいことを明確にして、自分の考えを表現し、文を構成して書く力が不十分である。 ・文章を比較し、関連付けて読み取ることに課題が残る。 ・漢字力、語彙力に個人差がある。 			
改善策	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く力を高めるために、話を聞く姿勢(体を向ける・目を見る)や態度の指導を徹底していく。 ・スピーチの活動を取り入れ、接続語を適切に使いながら、順序だてて話すことを意識させる。 ・音読の練習に年間を通じて取り組む。 ・ペアや少人数などのグループでの話し合いの機会を意図的に設定していく。 ・視写や文章を書く課題を取り入れ、書く習慣を身に付ける。書いた文章を読み返すことを意識させる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やす。 			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて話す内容を整理し、適切な言葉で話すことを意識させる。 ・音読の練習に年間を通じて取り組む。学級やグループでの音読や群読などの機会を設ける。 ・文章の読み取りのポイント(文章の言葉や表現、接続詞等)を明確に指導する。 ・さまざまな文章に親しむ機会を設け、豊かな表現に触れる機会を設ける。 ・「はじめ」「中」「終わり」など、文の組み立てメモを使用し、全体の構成を考えて書くようにさせる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やす。 			
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を活用しながら、本や新聞を読む活動を通し、語彙力を高める。 ・自分の意見の根拠を明らかにし、他者の考えを聞きながら、比較したり考えを深めたりする活動をいろいろな場面で取り入れる。 ・重要な表現に線を引くなど、事実や登場人物の気持ち、情景の描写などを文に即して丁寧に読み取る。 ・書く目的を明確にし、構成や表現の工夫について具体的に指導する。 ・家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小テストなどを通して、漢字の読み書きの習熟を図る。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 ・朝読書や図書の時間を通して、本に親しむ機会を増やす。 			

【 社会 】 内容および観点別の分析

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体験、調べ学習は意欲的に学習に取り組んでいるが、日常生活の中では、経験・体験不足から社会的事象への理解に苦労している児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な背景を読み取りながら、事象について考えることが概ねできているが、関連付けて深く考えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を比較し、読み取ったり、考察したりする力に課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象に関わる言葉の意味も含めた習得がやや不十分なため、知識・理解として定着していない部分が見られる。
考察	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれ、学習内容が身近なものから外へ広がるため、興味・関心については、個人差が大きい。 ・体験学習に意欲的に取り組み、名称や語句などを覚えることにこだわり、十分に知識を活用できていない児童もいる。 ・物事を多角的に見る視点に課題が残る。 ・市や都道府県の地理的感覚が十分でない。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースを見ていない児童が多く、社会的事象に対する関心がやや十分でない。 ・グラフや写真などの資料から、必要なものを調べることは出来るが、そこから社会的な見方や判断をしていくことは、個人によって差がある。 ・資料から見つけたことや複数の社会的事象を比較・関連付けて思考する力に課題が残る。 ・都道府県や国の地理的感覚が十分でない。 			
改善策	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な例を取り上げ、知識と関連させ学習を深めさせる。 ・体験的な活動を多く取り入れ、社会事象とつなげて考えさせる。 ・簡単な資料を提示して、資料から事実を読み取り、わかったこと・考えたことをまとめる活動に取り組みさせる。 ・主体的に考える学習を多く取り入れる。(問題解決型の能動的学習) ・地図帳を活用し、地理的感覚を方角やまちの様子、地形の特徴などからより豊かにさせる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を単元終了後等に活用し、地図記号等の習熟を図る。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事やニュースを学習で扱い、社会に目を向けさせる工夫をする。 ・グラフや表を読み取る学習や資料を活用する学習を適宜取り入れ、事象を読み取り、考えるおもしろさを味わわせる。 ・既習事項をもとに、学習問題をつくり、予想を立て、調べまとめる学習を多く取り入れながら、みんなで協力して解決していく活動を取り入れながら、より思考・判断が深められる学習展開につなげる。 ・社会的な事象と自分の生活と結び付けながら学習を進めることで、社会的事象についての関心を高めていけるようにする。 ・主体的に考える学習を多く取り入れる。(問題解決型の対話的学習) ・地図帳や地球儀を活用し、地理的感覚を気候の様子や国の位置関係などからより豊かにさせる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を単元終了後に活用し、都道府県名や国名等の習熟を図る。 			